

【研究2】通いの場の参加者／非参加者別の対象者特性の整理

- 東京都豊島区の高齢者を対象としたベースライン調査の実施 -

研究協力者	横山 友里	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 研究員
研究分担者	清野 諭	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 研究員

研究要旨

本研究では、通いの場等の取り組みの短期的効果検証におけるベースラインデータ収集のため、東京都豊島区の65歳以上男女15,000名を対象とした自記式郵送調査を実施した。調査の有効回答者5,576名（37.2%）を最終的な解析対象とし、介護予防のための通いの場（狭義の通いの場）／すべてのタイプの通いの場（広義の通いの場）の参加状況と対象者特性を整理した。コロナ以前の1年間（2019年）と過去1年間（2020-21年）における狭義の通いの場の参加者割合は、それぞれ7.5%と6.2%であった。また、広義の通いの場の参加者割合は、それぞれ47.0%と36.4%であった。コロナ以前に比べて、狭義／広義の通いの場参加率は低値を示しており、コロナ禍の影響を大きく受けていた。狭義の通いの場には社会経済状態の低い者が、広義の通いの場には社会経済状態の高い者が、それぞれ多く参加する傾向がみられた。加えて、狭義の通いの場には、フレイル該当者が比較的多く参加しているという特徴がみられた。次年度は両自治体における追跡調査結果をもとに、通いの場参加による短期的効果を整理する。

A. 研究目的

本分担研究では、PDCA サイクルに沿った通いの場等の取り組みの短期的効果を、参加群と非参加群の比較から明らかにすることを目的としている。

令和3年度は、通いの場等の取り組みの短期的効果検証におけるベースラインデータ収集のため、東京都豊島区の65歳以上男女を対象とした自記式郵送調査を実施し、介護予防のための通いの場（狭義の通いの場）／すべてのタイプの通いの場（広義の通いの場）の参加状況と対象者特性を整理することとした。

B. 研究方法

1. 研究対象者

令和3年9月1日時点で豊島区に在住する65歳以上男女のうち、要介護認定者を除く15,000名を無作為抽出して自記式郵送調査を実施した。調査票を回収できた8,372名（回収率55.8%）のうち、有効回答と同意が得られた5,576名（有効

回収率37.2%）を解析対象者とした。

2. 郵送調査項目

2-1. 通いの場の参加状況

過去1年間（2020年8月～2021年7月頃）および新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）拡大以前（2019年頃）の1年間について、1) ボランティアのグループ、2) スポーツ関係のグループやクラブ、3) 趣味関係のグループ、4) 学習・教養サークル、5) 介護予防のための通いの場、6) シニアクラブ、7) 町会・自治会、それぞれの参加頻度を尋ねた。

本研究では、5) 介護予防のための通いの場に月1回以上参加している場合を狭義の通いの場参加ありと定義した。また、1)～7)のいずれかに月1回以上参加している場合を広義の通いの場参加ありと定義した。

2-2. アウトカム指標

令和2年度協議した通いの場の類型^{1,2)}及び老

人保健健康増進等事業で提案した「通いの場等の取り組みを評価する枠組み」の短・中・長期アウトカム指標³⁾を調査した。

・短期アウトカム指標：運動頻度、食品摂取多様性得点、外出頻度、社会参加状況、等

・中期アウトカム指標：身体機能、精神的健康、フレイル、ソーシャルキャピタル、等

・長期アウトカム指標：幸福感、新規要介護認定、新規要介護認知症発生

なお、新規要介護認定および新規要介護認知症発生データについては、両自治体から介護保険情報の提供を受ける予定であり、その旨、承諾が得られている。

2-3. 調整変数

多変量解析実施時の調整変数として、性、年齢、飲酒・喫煙習慣、独居・配偶者の有無、学歴、所得、既往歴（高血圧、脳卒中、心臓病、糖尿病、がん、腰痛・神経痛・関節炎）、body mass indexを調査した。

2-4. 統計解析

コロナ拡大以前（2019年）と過去1年間（2020-21年）の狭義・広義の通いの場参加状況から、対象者を1) 非参加群、2) 参加中断群、3) 新規参加群、4) 継続参加群の4群に分類した。ベースライン変数の群間比較には、一元配置分散分析またはカイ二乗検定を適用した。

（倫理面への配慮）

本研究は、東京都健康長寿医療センター研究所倫理審査委員会の承認を受けて実施された。

C. 研究結果

コロナ以前の1年間（2019年）と過去1年間（2020-21年）における狭義の通いの場の参加者割合は、それぞれ7.5%と6.2%であった。また、広義の通いの場の参加者割合は、それぞれ47.0%と36.4%であった。

表1～2には、豊島区における狭義（表1）・広義（表2）の通いの場参加状況別のベースライン特性を示した。狭義の通いの場継続参加群では、非参加群に比べて、年齢、独居者割合、学歴高卒以下の割合が有意に高く、男性の割合が有意に低かった。広義の通いの場継続参加群では、非参加群に比べて、男性の割合、独居者割合、学歴高卒以下の割合、等価所得200万円未満の割合が有意に低値を示した。広義の通いの場継続参加群では、短・中・長期アウトカム指標が非参加群よりも良好な値を示した。狭義の通いの場継続参加群では、非参加群と比較して、身体機能維持者の割合が有意に低く、フレイル該当者割合が有意に高かった。その他のアウトカム指標は、非参加群よりも継続参加群で良好な値を示した。

D. 考察

豊島区の狭義の通いの場参加者では、年齢やフレイル該当率が高い傾向にあった。豊島区は、通いの場へのフレイル高齢者の参加を斡旋しており、こうした取り組みが反映された結果かもしれない。ただし、このような場合では、個人を識別しない連続横断調査のみで効果評価をおこなうと、通いの場参加群の各アウトカム指標が非参加群よりも見かけ上低値を示す傾向にある。通いの場の取り組みによる効果を適切に評価するには、同一の指標を用いて、個人を識別（追跡）した調査を実施することが重要である。

E. 結論

本研究では、豊島区の高齢者を対象としたベースライン調査を完了し、狭義／広義の通いの場の参加状況と対象者特性を整理した。通いの場の参加状況はコロナ禍の影響を大きく受けているため、これを考慮した解析が必要と考えられる。次年度は追跡調査結果をもとに、通いの場参加による短期的効果を整理する予定である。

F. 引用文献

- 1) 植田拓也, 倉岡正高, 清野 諭, 小林 江里香, 服部真治, 澤岡詩野, 野藤 悠, 本川佳子, 野中久美子, 村山洋史, 藤原佳典. 介護予防に資する「通いの場」の概念・類型および類型の活用方法の提案. 日本公衆衛生雑誌. (印刷中)
- 2) 小林江里香, 植田拓也, 高橋淳太, 清野諭, 野藤悠, 根本裕太, 倉岡正高, 藤原佳典. 「通いの場」の類型別にみた参加者の多様性と住民の主体性：高齢者が参加する都市部の自主グループ調査から. 日本公衆衛生雑誌. (印刷中)
- 3) 令和2年度老人健康増進等事業「通いの場の効果検証に関する調査研究事業（代表：藤原佳典）」. 2021. https://www.tmghig.jp/research/info/cms_upload/f37ff63644acb96546e178a71cd5b377.pdf.

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
 - 1) 植田拓也. 多様な通いの場におけるPDCAサイクルに沿った評価の視点. シンポジウム14: 住民主体の多様な通いの場・居場所の展開: 住民主体の通いの場の概念と多様な通いの場の類型. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021.12.21-23.
 - 2) 清野 諭. 多様な通いの場におけるPDCAサイクルに沿った評価の視点. シンポジウム14: 住民主体の多様な通いの場・居場所の展開: その概念整理とPDCAサイクルに沿っ

た評価. 第80回日本公衆衛生学会総会. 202
1.12.21-23.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1. 狭義の通いの場参加状況別にみたベースライン時の特徴：豊島区

	非参加群 (4,744名)	参加中断群 (117名)	新規参加群 (52名)	継続参加群 (262名)	P値
年齢, 歳	74.9±6.8	79.4±5.9	80.3±7.2	79.5±6.0	0.009
男性, %	48.6%	15.4%	32.7%	25.6%	< 0.001
独居, %	28.9%	39.1%	50.0%	37.7%	< 0.001
教育年数12年以下, %	45.4%	53.0%	61.5%	50.0%	0.010
所得段階 非課税, %	10.9%	6.8%	5.8%	11.1%	< 0.001
短期アウトカム					
運動頻度2回/週以上%	76.1%	89.6%	84.0%	88.0%	< 0.001
食品摂取多様性, 点	3.6 ± 2.4	4.6 ± 2.7	4.1 ± 2.3	4.6 ± 2.6	0.336
外出頻度 毎日, %	44.4%	32.5%	30.8%	48.1%	0.005
中期アウトカム					
身体機能 維持, %	81.8%	71.8%	59.6%	70.7%	< 0.001
WHO-5精神的健康状態表 13点以上, %	67.9%	74.8%	77.6%	76.4%	0.008
フレイルあり, %	31.2%	44.0%	35.7%	36.9%	0.097
近隣への信頼あり, %	70.4%	79.5%	86.0%	82.5%	< 0.001
長期アウトカム					
幸福感 (0-10) 点	7.2 ± 1.9	7.5 ± 1.8	7.6 ± 1.8	7.6 ± 1.8	0.254

表2. 広義の通いの場参加状況別にみたベースライン時の特徴：豊島区

	非参加群 (2662名)	参加中断群 (704名)	新規参加群 (156名)	継続参加群 (1797名)	P値
年齢, 歳	75.3±7.2	75.8±6.7	76.9±7.7	75.3±6.5	< 0.001
男性, %	53.5%	37.2%	39.1%	38.9%	< 0.001
独居, %	31.8%	27.7%	32.0%	27.5%	0.009
教育年数12年以下, %	52.1%	37.4%	57.1%	40.0%	< 0.001
所得段階 非課税, %	13.7%	8.5%	9.6%	7.9%	< 0.001
短期アウトカム					
運動頻度2回/週以上%	69.9%	80.2%	76.7%	86.6%	< 0.001
食品摂取多様性, 点	3.3±2.4	4.2±2.4	3.6±2.4	4.2±2.4	0.945
外出頻度 毎日, %	42.9%	34.8%	47.4%	49.4%	< 0.001
中期アウトカム					
身体機能 維持, %	77.5%	79.7%	76.8%	85.4%	< 0.001
WHO-5精神的健康状態表 13点以上, %	60.2%	68.6%	74.8%	80.9%	< 0.001
フレイルあり, %	38.8%	34.8%	32.5%	21.7%	< 0.001
近隣への信頼あり, %	65.0%	74.7%	72.0%	79.8%	< 0.001
長期アウトカム					
幸福感 (0-10) 点	6.9±2.0	7.4±1.9	7.3±2.0	7.7±1.7	< 0.001